

豊かな心を育てる道徳教育の推進 ～地域のよさ・人を生かして～

栃木県那須塩原市立西小学校 木村 加容子

I 現状と課題

1 現状認識

道徳の教科化とともに、新学習指導要領総則には「道徳教育推進上の配慮事項」として「家庭や地域社会との連携」が挙げられ、「道徳教育に関わる情報発信」並びに「家庭や地域との相互連携」の必要性や有効性が示されている。那須塩原市では、平成29年度から各中学校区で地域学校協働本部が立ち上がり、学校と地域とが目指すところを共有し児童生徒の育成にあたることとなった。そこで、本地区では、地域のよさ・人を生かして、豊かな心を育てる道徳教育を推進していく上で校長の果たすべき役割と指導性を究明していきたい。

2 課題分析・アプローチの視点

この研究は、那須塩原市小学校長会が研修部を中心に3年間で取り組むべく計画したものである。初年度の平成30年度は市内21小学校の協力をもとに現状把握、情報交換を行い、先進的な取組の事例を紹介することで今後の豊かな心を育てる道徳教育の推進につながるようにした。

II 研究の概要

1 現状把握のためのアンケート調査結果と研究協議

「特別の教科 道徳」の実施に関して市内21小学校を対象に各校の取組の現状や地域の教育力をどのように生かしているか等について実態調査を行った。その結果を基に校長の果たすべき役割と指導性について協議した。

(1) 研究協議（校長の果たすべき役割と指導性）

- ① 全校朝会等で学校の重点目標となる道徳的価値について直接子どもに語りかける機会の設定。
- ② 授業参観、学校公開、学校だより、HP、地域行事のあいさつ等機会を捉えて行う情報発信。
- ③ 校内研修の充実と道徳教育推進教師や地域連携教員に対する的確な指示や環境整備、彼らの位置付けを明確にした校内体制の整備。
- ④ 地域のよさ・人を生かす視点を加えた道徳教育全体計画の見直しと教育課程の実施。

2 各校の実践事例

(1) 道徳の教科化に向けた研修

大学の准教授を招聘し、提案授業をもとに教師の発問、子どもの意見の生かし方等について学んだ。

(2) 全体計画の見直し

道徳教育全体計画に他教科との関連を示した別葉を作成すると共に、地域人材活用一覧表に道徳との関連を示した。

(3) 情報発信

各学校で計画的に授業参観日や学校公開日に道徳の授業を公開した。また、道徳の評価については県の

リーフレットを活用し学校だよりやHPに掲載し保護者の啓発を行った。

(4) 地域学校協働本部事業との連携

中学校区で道徳教育の重点目標を設定し地域学校協働本部事業と連携しながら「さわやかサミット」に取り組んだ。「さわやかサミット」では、「あいさつでつくる地域の絆」をテーマに地域住民、保護者、児童生徒が一緒になって地域の実態に関する情報交換を行い、課題解決に向けて協議した。

(5) 地域行事を生かした取組

コミュニティ主催の「子ども盆踊り大会」で行った地域との交流を生かし、地域住民の学校への思いを道徳的価値「郷土愛」「感謝」に結び付けて全校朝会で校長の思いを伝えた。道徳教育推進教師を中心に組織を生かして学校全体で共通して取り組むことでより大きな効果が得られた。

(6) 周年行事を生かした取組

周年行事に道徳的価値「愛校心」「郷土愛」「感謝」を結び付けて全校朝会で創立記念行事の意義を伝えた。各学級で道徳の授業で「学校を愛する心」を深める指導を行い、創立記念日を祝う集会活動に結びつけた。全児童が書いた学校自慢を掲示したり、その様子を学校だよりで保護者や地域住民に発信したりした。

III 成果と課題

1 成果

指導者を招聘しての校内研修、指導体制づくり、地域への情報発信などの取組を行うことで、教職員一人一人の意識が高まり、新学習指導要領が求める道徳教育の指導の充実につながった。また、学校、地域の双方で、道徳教育を意識し、児童の郷土愛が育まれてきた。

2 課題

地域と連携した取組を道徳教育の全体計画に位置付けることや、各学校の特色に応じて誰がどのように地域との関わりをコーディネートするのか体制、組織、役割分担などを明確にしていくことが必要である。また、地域との関係が希薄になっている現在、地域住民と子どもが互いに知り合い声を掛けられるふりさとづくりを意識して教育活動に取り組んでいくことが大切である。

IV 提言

- 1 地域との連携を図りながら、地域の良さ・人を生かした体験的活動を計画的、継続的に実施し子どもの道徳的実践力を向上させる。
- 2 校長のリーダーシップの下に、地域との連携・協働を実現する教育課程を実施する。
- 3 道徳教育に関わる計画的な情報発信と学校と地域との相互交流の場の設定を行う。